

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700249		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家いわくら		
所在地	愛知県岩倉市大市場町郷廻310番地		
自己評価作成日	平成24年10月28日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&ligosyoCd=2374700249-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・必要以外は玄関・リビングの施錠をしない開放的な環境に努めている ・外出できる機会を出来るだけ設けて行こうと考え、日常の買い物や喫茶店をはじめ、誕生会・花見・母狩り等に出かける機会づくりに職員全員で努力している ・規則正しい食生活も大切ですが、食べたい物を食べていただく、ありきたりな家庭の味を楽しんで頂けるよう努めている ・その人らしい生き方を支援し楽しく暮らしていくことを大切にしているせいか、余命宣告された方も、骨折後リハビリがえなかった方も、回復したように生活してみえる ・地域密着型サービスとしての地域の方との関わりを大切に(夏祭などの地域行事・軽トラ市・芋煮会など)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>スタッフ全員がホームの理念を理解し「家庭の中で生き生きと自分らしく生活していく」為の支援をしている。スタッフを含めた家庭の中で、各々のペースで生活を楽しみ穏やかに過ごせる様気配りがなされている。スタッフ間の意思疎通が良く、意見や情報が共有され対応されている。ホーム全体が明るく開放的で散歩途中の幼稚園児が訪問したり近所の農家から野菜の差し入れがあったりして地域に馴染んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374700249		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家いわくら		
所在地	愛知県岩倉市大市場町郷廻310番地		
自己評価作成日	平成24年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&lijosyoCd=2374700249-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・必要以外は玄関・リビングの施錠をしない開放的な環境に努めている ・外出できる機会を出来るだけ設けて行こうと考え、日常の買い物や喫茶店をはじめ、誕生会・花見・母狩り等に出かける機会づくりに職員全員で努力している ・規則正しい食生活も大切ですが、食べたい物を食べていただく、ありきたりな家庭の味を楽しんで頂けるよう努めている ・その人らしい生き方を支援し楽しく暮らしていくことを大切にしているせいか、余命宣告された方も、骨折後リハビリが行えなかった方も、回復したように生活してみえる ・地域密着型サービスとしての地域の方との関わりを大切に(夏祭などの地域行事・軽トラ市・芋煮会など)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>スタッフ全員がホームの理念を理解し「家庭の中で生き生きと自分らしく生活していく」為の支援をしている。スタッフを含めた家庭の中で、各々のペースで生活を楽しみ穏やかに過ごせる様気配りがなされている。スタッフ間の意思疎通が良く、意見や情報が共有され対応されている。ホーム全体が明るく開放的で散歩途中の幼稚園児が訪問したり近所の農家から野菜の差し入れがあったりして地域に馴染んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼やミーティングで復唱し共有しあっている ・誰でも確認できるように玄関ホールに掲示してある	理念は玄関ホールに提示してあり、日々の業務の中でも復唱し再確認をしている。スタッフ各々が理念を理解し入居者各々が「自分らしく生きる為」の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に参加し(夏祭・婦人防災クラブ等)日頃は散歩などで挨拶を交わし合い、畑も協力してもらおう等交流している ・ボランティアの受け入れや、駆け込み所となるよう玄関先にホーム名が分かりやすく表示してある ・付き合いの長い地域の子供達が、自主的に集いダンスを披露してくれる	現在地に転居してまだ1年未満だが区長、民生委員、大家さん達の協力でスムーズに地域に溶け込めた。地域行事への参加、秋祭りの御神輿、保育園児が立ち寄り寄ってきている。近所の住民とは散歩の時に挨拶しあったり野菜を頂いたりしている。又、認知症ケアアドバイザーの活動に参加し啓蒙や一般の住民からの相談を受ける事ができる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・喫茶店や地域のスーパーに行く等、自然に地域の人の目に触れ理解してもらえるよう行動している ・HPを設け、誰でも日常生活のブログが閲覧できるようにになっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告し、参加者から情報もいただきサービスに活かす努力をしている(行事の情報など)	転居で委員が交代した方もいたが委員同士の引継ぎがスムーズに行われ会議の欠席者も少ない。会議の前の時間に避難訓練を行い見学してもらったり、頂いた野菜を調理した食事を食べてもらいホームを身近に感じてもらう努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書や介護相談員さんの報告書など持参できる提出書類は出来るだけ持参し顔合わせの機会を設けるなどし、情報交換・相談など協力関係を築いている	運営推進会議には地域包括支援センターか市の担当者が必ず出席しており、行政との関係を保っている。運営推進会議、介護相談員の報告書は出来るだけ持参し、情報交換や相談の機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、身体拘束の勉強会も行っている ・安全保持時間以外は玄関や居室に施錠を全くしない	夜勤時間帯は玄関に施錠している。安全と拘束の境を何処にひくか難しいがその場その場で話し合い対処している。スタッフは勉強会に参加し理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学び、入居者さんを尊重したケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会の状況を鑑みて、全ての職員が学び活用できるよう努力したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明が充分に行われ、理解・納得して頂けるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の定期開催や、入居者さん・家族が意見要望を表せるよう、管理者・計画作成担当者は面会時声かける等し、その環境を整えている	前住地で意見箱を設置していたが殆ど利用されなかった。運営推進会議の出席時と、面会時の面談が要望、意見を聞く場になっている。時間は1時間以上になる事も有り対応は管理者、フロア長、計画作成担当者としている。ホームと個々の家族との信頼関係は深いが家族同士の接点はない。	ホーム主催の夏祭りに家族の参加は5割程度であった。家族同士がお互いに話合うことで癒されたり新しい発見があると思うのでそうした機会を設ける等の検討・実践を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや半期ごとの個人面談自己評価の際、又毎日でも意見や提案を述べる機会があり反映できている	ミーティングや6ヶ月毎の個人面談の場をもうけているがスタッフからの提言、意見は日常的に常時受け対応している。スタッフと管理者とのコミュニケーションがよく発言し易く対応も速い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は職員個々の希望を聞き出来る限り応えられるよう努めている ・個々の家庭事情や体調に合わせてベストな状態で働く事が出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員を選ばず学ぶ機会を支援している(1~2カ月に1回の社内基礎研修や外部GHの交流勉強会・見学会など)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内GHと勉強会・親睦会など相互訪問を通してサービスの向上への取り組みをしている ・愛知県GH連絡協議会に加入し、地域のGHとの交流の場に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人に寄り添って要望を察知する努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階でご家族の意向も伺えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要な支援を見極めサービス提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共に暮らす者として支え合う関係を大切にするため、食事は同じものを同じテーブルでとり、服装は制服ではなく私服でとしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんにして頂ける事は出来る限りして頂けるように働きかけ、職員・家族さんが共に支えていく関係を築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの関係が途切れないよう努めている。 ご本人の体調が良く、家族さんの理解を得て同窓会に付き添ったこともある ・いつでも誰でも訪ねて来れる環境にあり、知人と外出が出来る	ホーム自体訪れやすい雰囲気があり、家族以外の友人や知人の訪問もある。外出時必要があれば家族と相談し付き添うこともあるし友人と外出する入居者もいる。転居後、馴染みの喫茶店が遠くなり新しい店を開拓中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、集う場の席の配置など考慮し楽しく暮らせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応する心の準備は出来ているため、地元のスーパーや喫茶店で会った際には挨拶をし話すこともある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望・意向の把握に努め、内容によっては検討し実現に向け努力している	今迄の生活歴や家族の話を参考にしながら、相手の言葉、表情、身振り、を観察し「今、何をしたいのか」を知り、それが当たっているか相手に確認し対応している。新しい情報は引継ぎ簿や気付きシートで全員に共有される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの方との会話から、生活歴をくみ取る努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の過ごし方、心身状態を把握し記録に残し職員で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向が聞き取りにくい場合が多いが、現状に即したプランが出来るよう努めている	日常生活の中で気づいた事があればカンファレンスにかけ計画を修正していく。3ヶ月毎のモニタリングは全員から意見を提出してもらい、カンファレンスや家族との面談を参考にし、介護計画担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で共有している。聞き取りやアンケートも行い見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化は難しいと考えるが、その時々生まれるニーズに対応できるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら暮らしを楽しめるよう努力している。2月に移転してから地域のボランティアという地域資源の出入りが増えた(畑・ハーモニカ・フラダンスなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族さんの希望を重視し受診対応の支援もお願いしている。往診も利用して頂いている。	往診やご家族の協力を得て受診支援しているが、ご本人やご家族の希望でかかりつけ医にスタッフが付き添いする場合もあり、本当はコストのご負担をお願いしたいが市からの要請もあり現在はいただいていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との直接的やりとりはなく、入居者さんの変化や異常に留意し、かかりつけ医につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者さんによって、かかりつけ医が違い頻度も違うため、全ての病院との関係づくりは難しいが、入院した際には早期退院できるよう働きかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について兆しがある段階からは、家族さんとの話し合いや必要に応じ医師も交え方針を決めていくよう取り組んでいる。ホームでの看取りについては、全員対応は厳しく家族さんの理解と他の入居者さんとの兼ね合いを見て検討するとしている	ご家族に理解していただくために常日頃から話し合いの場をつくっている。重度化した場合の医療機関をご家族のご協力もいただきながら、一緒に探すなど支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践できる状態にないため、応急手当や初期対応の訓練・研修の機会を設けていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	階段訓練、避難訓練、消火器訓練を行い、運営推進会議では地域の協力をお願いしている。移転して1年たっていない為、地域での存在が薄いと感じられるため、顔なじみの関係になれるよう努力が必要	避難訓練を計画的に実施している。地域の婦人防災クラブとも連携し、地域の協力もいただけるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・慣れ合いに気をつけ人格を尊重し、プライバシーにも配慮できるよう心掛けている。管理者は、言葉かけのよくない場面を見たら職員に伝えている ・入居者さんに得意なことをやっていただき、誇りを持っていただけるよう支援している	入居者の気持ちを汲み取る努力をして、少しでも残りの人生を輝いてすごしていただきたいと考えておひとりおひとりと向き合っている。ご家族がホームに来ていただいた時も自信を持って普段通り入居者と接する事ができるように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人が、希望や要望が言えるよう寄り添い耳を傾けるなどし、環境を整えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の過ごし方を優先したいという気持ちで努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・全ての人に出来ないが、おしゃれしたい方にはしていただけるよう支援している。(好みの洋服の購入・化粧品道具の購入・毛染めなど) ・全員同じ髪型ではなく、好みの髪型になるよう希望を聞き対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物・食事作り・配膳・後片付けまで、一人ひとりの能力に合わせて一緒に行えるよう努めている	なるべくご本人が好きなのを食べていただきたいと考え実践している。外食にも積極的に取り組み、予定外であっても入居者と盛り上がり突発的に回転寿司へ行ったりと楽しみながらやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し状況の把握に努めている。摂取量が少ない場合は好みのものを提供したり、喫茶店にいったり、場合によっては医師に相談し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夜入床前に口腔ケアを行い義歯は薬につける。毎食後行う方も口腔内状態によって対応しているが、全ての方に毎食後支援出来ないため努力が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には時間でトイレに促している。リハビリパンツやパッドが必要無くなれば下着に変える等し、オムツに頼らない環境にも気を配っている	入居者おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、なるべくお手洗いで排泄していただけるよう配慮している。状態が良ければリハパン等に頼らない努力もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分を積極的にとる、便器に座っていただく、体操を促すなどし対応している ・その方の状態に応じ、便秘薬も使用している ・毎朝1本乳酸菌飲料を飲んでいただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は毎日可能。毎日入りたい人・入りたくない人など個々の希望に添いながら風呂嫌いな方への対応等も努力している ・希望を表現できない方には職員が順番を決めざるを得ない現状もある	ご本人の希望を尊重しながら入浴を楽しんでいただけるよう支援している。 入浴が嫌いな方にも強引に入っていたくのではなく、いろいろ工夫して納得して入浴していただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間活動の少ない方が夜眠れないのは当然であり、そのような場合も寄り添って安心して頂けるよう対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を管理し、症状の変化があった時は随時医師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の役割を持っていただく。気分や気候に合わせた外出や、好きな時に嗜好品を摂って頂ける支援もしている(栄養ドリンク・菓子の所持)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出は一部の方のみにしかできていない(一人で2人付き添えない身体状態の低下や入居者さんの経済的状況など)が、その人に合った外出(飛行機見物・甘味外食など)を考え対応している	ご本人の希望を把握し、少しでも楽しく外出していただけるよう努力している。同一法人の温泉があるデイサービスにみんなで入浴に行く事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名自由に使えるお金を1~2千円所持している以外はスタッフが代行して応えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方、手紙を出せる方には支援できる体制にある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにてゆったり過ごせるよう配慮している。時としてリビングが居心地が悪いと感じる場合は、玄関ホールに設置してある椅子にて過す場面もある ・2月に移転し掲示物が少なく家的な雰囲気が少ない為、季節にあった掲示物を作成する等し努力している	移転し新しい建物になったため、どのような空間が過ごしやすいのか、常に考え中である。清潔で自然な明かりも入ってくるリビングで入居者はゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、個人の部屋に仲間が訪室したりできている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの馴染みの物を置いていただき、皆さん全く違う使い方をしている(テレビ・仏壇・机・椅子など)	ご家族に協力していただき、馴染みのものを持ち込んでいただくなどして居心地よく過ごしていただけるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるよう、生活動線を確保したり付き添ったりしている		